

平成 18 年度／第 1 回 理事会 議事録

日 時：平成 18 年 5 月 23 日（火）17 時 30 分～18 時 45 分

場 所：全共連ビル 101 号室

出席者：野嶋 孝会長，仁田旦三会長代理，滝沢照広・青嶋義晴・日高邦彦・田井一郎 各副会長，
内藤雄順・片岡和久・大木義路・石井 勝 各常務理事，村岡泰夫専務理事，岡本達希・
池田久利・宮道壽一・齋藤涼夫 各部門長，奥村雅則 E 準部門長，吉川照一・一ノ倉 理・
中村秋夫・大熊 繁・岩原正吉・八木重典・大西徳生・和田 清 各支部長，佐藤裕雄・
福永定夫 各監事

オブザーバ：川北浩司・小林昌三・小山泰史・花井浩一

事務局：島田敏男事務局長，神尾知幸事務局長代理，細川 亮，会田 宏，槌屋孝司，
森 正美，小笠原勝彦，戸田弘明

配布資料：

平成 18 年度 電気学会役員名簿

1. 平成 18 年度 副会長の職務分担
2. 電気学会組織および会議体編成図／理事会・各種会議体および委員会の構成
3. 電気学会 平成 18 年度 事業計画の実施分担〔案〕
4. 平成 18 年度 会議開催日程表（案）
5. 平成 18 年度 会長代理・部門長・支部長候補者 所信表明
6. 共催技術会合等における著作権の明確化に関する検討 WG 設置趣意書（案）
7. D 部門代表評議員の交代について
8. 事業維持員代表評議員の交代について
9. 北海道支部役員の交代（ご報告）
10. 中国支部役員の交代（ご報告）
11. 2006 年 4 月会員入（退）会の承認について
12. 第 27 回ドライブプロセス国際シンポジウム 概要報告書
13. 2005 年パワーエレクトロニクス国際会議 最終報告書
14. 『電力・エネルギー部門 研究・技術功労賞』規程
15. 事業概況報告（平成 18 年 4 月末日現在）

議事概要：

開会に先立ち，事務局から定款第 30 条（理事会の定足数等）に基づき，本理事会は出席理事 25 名で成立条件の定足数（理事現在数の 2 分の 1 以上：13 名以上）が満たされている旨の報告があり，定刻より滝沢副会長の議事進行により議案の審議を開始した。

1. 野嶋会長挨拶

野嶋会長から，技術者の社会的位置付けの変化や大きな変革の流れの中で学会としての戦略的な対応策が必要であり，技術者のレベルアップのためにも有効な施策を模索していく所存であり，1 年間ご支援・ご協力をお願いする旨の挨拶があった。

2. 審議事項

2.1 平成 18 年度事業の進め方

（1）副会長の職務分担

村岡専務理事から資料 1「平成 18 年度 副会長の職務分担」に基づき，次のとおり各副会長の職務分担について提案があり審議の結果，承認された。

滝沢照広 副会長：総務企画担当
青嶋義晴 副会長：会計担当
日高邦彦 副会長：編修担当
田井一郎 副会長：研究経営担当

(2) 平成 18 年度組織および会議体

村岡専務理事から資料 2「電気学会組織および会議体編成図／理事会・各種会議体および委員会の構成」に基づき、役員が出席すべき会議体について説明があり審議の結果、原案どおり承認された。

(3) 平成 18 年度事業計画の実施分担〔案〕

村岡専務理事から資料 3「電気学会 平成 18 年度 事業計画の実施分担〔案〕」に基づき、項目ごとに「具体的な実施内容」、「目標とする成果／ポイント」、「担当部署」等について説明があり、審議の結果、各担当部署で実施内容等を確認の上、年度展開していくことが原案どおり承認された。

(4) 平成 18 年度年間スケジュール案

村岡専務理事から資料 4「平成 18 年度 会議開催日程表（案）」に基づき、各会議体の位置づけの説明および関係役員の皆様にはご予定頂きたいとの依頼があった。

また、開催日程がまだ決まっていない会議体については、大会等との重複を避けて設定頂き、決まり次第事務局へお知らせ頂きたいとの依頼があった。

2.2 平成 18 年度新役員所信表明

平成 18 年度新役員から資料 5「平成 18 年度 会長代理・部門長・支部長候補者 所信表明」に基づき、仁田会長代理・各部門長・各支部長から所信表明があった。

2.3 「共催技術会合等における著作権の明確化に関する検討WG」の設置

日高副会長から資料 6「共催技術会合等における著作権の明確化に関する検討 WG 設置趣意書（案）」に基づき、次のとおり設置の提案があり審議の結果、原案どおり承認された。

なお、審議にあたり、現状の著作権規程（編修・規程 3）から外れて運用されている場合もあるが、今回設置されることとなった WG の検討結果がある程度オーソライズされるまでは、従来の運用を踏襲していくことが確認された。

- ・すでに著作権規程（編修・規程 3）は制定されているが、現状の問題点を洗い出し、電気学会としての基本的スタンスを確立した上で、他学会等との調整に入ることとする。
- ・この機会に将来予想される問題点について、共通認識を持っておきたい。

2.4 評議員および支部役員の交代

(1) D 部門代表評議員の交代

齋藤 D 部門長から資料 7「D 部門代表評議員の交代について」に基づき説明があり、審議の結果、次のとおり交代が承認された。

大熊 繁氏（名古屋大学）→大西公平氏（慶應義塾大学）

(2) 事業維持員代表評議員の交代

事務局から資料 8「事業維持員代表評議員の交代について」に基づき説明があり、審議の結果、次のとおり交代が承認された。

森下和夫氏（東北電力）→前川文章氏（東北電力）

(3) 北海道支部役員の交代

吉川支部長から資料 9「北海道支部役員の交代（ご報告）」に基づき、支部総会において平成 18 年度新任の支部役員の交代を次のとおり承認したとの報告があった。

| 役 職 | ご退任者氏名（所属） | ご新任者氏名（所属） |
|--------|--------------|--------------|
| 総務企画幹事 | 板橋正明氏（北海道電力） | 市川修一氏（北海道電力） |

(4) 中国支部役員の交代

奥村支部長（代理：事務局）から資料 10「中国支部役員の交代（ご報告）」に基づき、支部総会において平成 18 年度新任の支部役員の交代を次のとおり承認したとの報告があった。

| 役 職 | ご退任者氏名（所属） | ご新任者氏名（所属） |
|-----|-------------|-------------|
| 協議員 | 迫口和徳氏（出光興産） | 中村 宏氏（出光興産） |

2.5 会員入（退）会の承認について

島田事務局長から資料 11「2006 年 4 月会員入（退）会の承認について」に基づき、説明があり審議の結果、入（退）会について承認された。

- ・個人会員入会者数 269 名
- ・個人会員退会者数 76 名
- ・事業維持会員入会数 2 社（2 口）
- ・事業維持会員退会数 2 社（13 口）
- ・事業維持会員口数変更 2 社（16 減口）

その結果、平成 18 年 4 月末の会員数は個人会員 24,780 名、事業維持会員 472 社(3,290 口)となった。

また、前回報告分の事業維持員からの退会お申し出の中で、日立エンジニアリング(株)について引留要請者となった滝沢副会長から、会社再編のための退会であるが、現在事務局レベルで再編先との調整を行っている旨の進捗状況報告があった。

なお、その他の事業維持員からの「退会」もしくは「口数減口」のお申し出（今回報告分：9 社）については、引留要請者を定めるまでには至らなかった。

3. 報告事項

3.1 第 27 回ドライプロセス国際シンポジウム概要報告

栗原組織委員会委員から資料 12「第 27 回ドライプロセス国際シンポジウム 概要報告書」に基づき、次のとおり報告があった。

- ・開催期間：2005 年 11 月 28 日～30 日
- ・開催場所：ラマダ ホテル（済州島／韓国）
- ・セッション構成：23 件の招待講演を含む 12 のオーラルセッションおよび 2 つのポスターセッションを実施
- ・発表論文数：一般講演 188 件（口頭 31 件・ポスター 157 件／内訳：日本 68 件・韓国 100 件・その他 20 件）
- ・招待講演：23 件（米国・EU・韓国・日本・シンガポール）
- ・参加者数：339 名（参加国：13 カ国）
- ・表彰：発表論文の中で極めて優秀な論文（DPS2005 Award for Best Paper）には該当がなく、若手研究者を対象とした優秀な論文（DPS2005 Award for Young Researcher）が 2 件選出された。
- ・剰余金：国際会議規程細目に従い、大会開催地の名古屋会計と東京会計の剰余金の 20%（519,770 円）を電気学会本部へ繰り入れた。

- ・次回開催：開催日程・場所が当初の申請内容から変更となり、第29回ドライブプロセス国際シンポジウム(DPS 2006)は、2006年11月29日～30日の日程で、ウイル愛知(名古屋)にて開催予定である。

3.2 2005年パワーエレクトロニクス国際会議 最終報告

大西組織委員会委員長から資料13「2005年パワーエレクトロニクス国際会議 最終報告書」に基づき、次のとおり報告があった。

- ・開催期間：2005年4月4日～4月8日
- ・開催場所：朱鷺メッセ(新潟)
- ・参加者数：552名(国内418名・海外134名)
- ・論文投稿総数：458件(一般論文398件・Organized Session60件/40カ国/国内247件・海外211件)
- ・最終論文掲載数：315件(国内204件・海外111件/論文最終採択率64.3%)
- ・剰余金：国際会議規程細目に従い、剰余金の20%(316,675円)を電気学会本部へ繰り入れた。
- ・次回開催：剰余金の管理等については、2010年の次回開催に向け管理委員会に引き継ぐ。

3.3 B部門・規程3の制定

池田B部門長から資料14「『電力・エネルギー部門 研究・技術功労賞』規程」に基づき、次のとおり規程の制定報告があった。

- ・B部門研究・技術功労賞は、長年、地道な活動を続けて技術の発展に貢献してきた研究者または技術者の功績を顕彰することを目的とする。
- ・当該年度のB部門大会実行委員会に1名の推薦を依頼する。
- ・副賞は賞金5万円とし、表彰に係る費用は、部門会計より支出する。

3.4 事業概況報告

島田事務局長から資料15「事業概況報告」に基づき、平成18年4月の1ヶ月間の事業概況報告があった。

3.5 その他

理事会資料は、できるだけ電子化データでの提供可能としてほしいとの要望があり、極力、会員の「My ページ」にアップし、必要に応じて閲覧できるように事務局が検討することとした。

以上、すべての議案の審議を終了し18時45分閉会した。